

令和7年10月16日（木曜日）

豊後高田市立高田中学校 舛友 拓哉先生の授業です。

授業の単元は、第2学年「1次関数」。長方形の辺上の点が動いたとき、頂点と動点を結んでできる三角形の面積について考察することを通して、具体的な事象から点が動く時間とその時にできる三角形の面積といった2つの数量を取り出し、その関係を表、式、グラフを用いて表現する場面です。

導入では、点が動く様子を示したシミュレーション動画を見せ、生徒が取り組む問題をイメージしやすくする工夫がなされていました。時間の変化とともに、三角形の面積が大きくなったり、小さくなったり、変わらなかったりすることについて、生徒とのやり取りを通じて確認をし、表、式、グラフを関連付けながら、三角形の面積の変化の様子を考察する活動を行わせることができていました。

また、一人一人が個で考える時間を確保した後、班での活動に移行しました。生徒同士でそれぞれの考えを説明し合う場面では、 x の変域を意識せず、グラフを書いている生徒に対して、同じ班の生徒が、表や式を関連付けながら説明し、グラフの修正を促すなど、生徒同士の日常的な教え合い活動が充実していると感じられました。説明を受ける生徒も他者の考えを受け、「そういうことか」と納得を得るなど、本時の学びを実感する様子が見られました。

ぜひ、今後も生徒が主体的に授業に取り組めるよう、導入の工夫や生徒同士での教え合い活動の充実を図ってほしいと思います。

